

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方にお知らせする情報誌です。

V O L . 6 2

発行 / 平成 26 年 10 月



旬を迎えた豊前本ガニ（ガザミ）

調査情報

- ・ 海況情報 2
- ・ 有明海でノリ養殖がスタート 2
- ・ 豊前海におけるハモの資源管理について 3
- ・ 藻場の再生が進む 4
- ・ エツ種苗の放流数が過去最高！ 4

研究情報

- ・ 有明海における人工アマモによる底質改善について 5

なみなみニュース

- ・ 内水面漁業者がウナギ資源管理をスタート 6
- ・ 漁業者グループが環境保全学習会を開催 6
- ・ 【お知らせ】おめで鯛まつりを開催 6
- ・ Food EXPO Kyushu で県産水産物を P R 7
- ・ ふくおかの地魚応援の店情報誌「魚っ魚一と」を発行 7

研究員紹介

- ・ 有明海研究所 技師 江頭 亮介 8

普及だより

- ・ 子どもたちを対象とした水産教室を開催 8

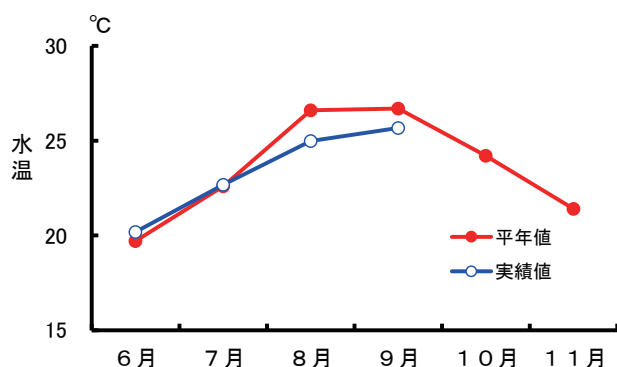
調査情報

海況情報

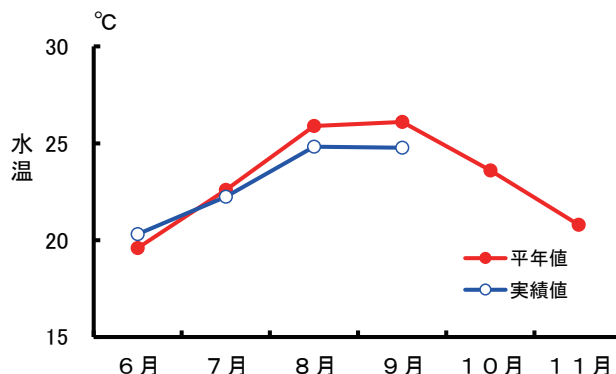
7～9月の表層水温は、筑前海では、沖合域は7月が平年並み、8月がかなり低め、9月がやや低めでした。沿岸域では7月が平年並み、8月がやや低め、9月がかなり低めでした。

有明海では、7、9月がやや低め、8月がかなり低めでした。

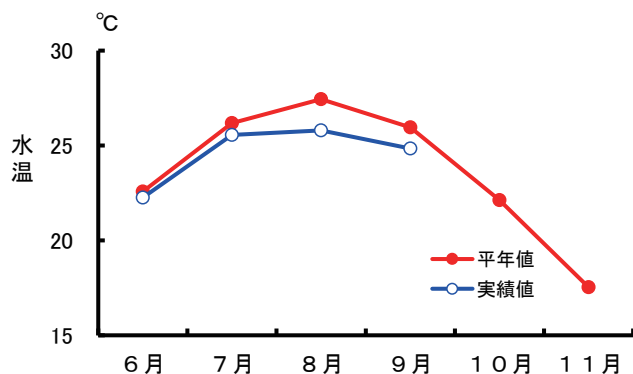
豊前海では、7月が平年並み、8～9月がやや低めでした。



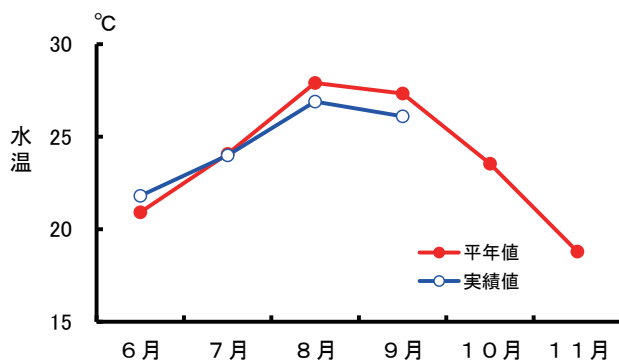
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

有明海でノリ養殖がスタート

ノリの全国有数の産地である有明海において、今年もノリ養殖が始まりました。

今年の種付けは、当初、10月10日の予定でしたが、台風19号の接近が伝えられたことで、急遽5日遅れての開始となりました。この結果、種付けは、例年と異なり、小潮周りで行われました。

種付け作業が直前で延期されたことでカキ殻糸状体の熟度の抑制作業や台風の降雨による比重低下の影響が心配されましたが、10月22日現在、種付けは概ね順調のようです。しかし、秋芽初摘採の時期が11月中旬の小潮に当たるため、赤ぐされ病への注意が例年以上に必要です。研究所としても漁場調査を行い、漁業者の皆さんへの情報提供、指導にしっかり取り組んでいきます。



種付けの様子

(有明海研究所)

豊前海におけるハモの資源管理について

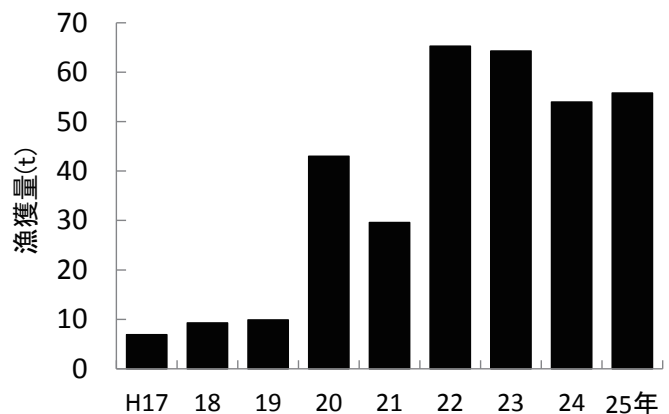
豊前海におけるハモの漁獲量は、近年増加傾向にあります。今後、ハモ資源を持続的に利用していくためには、資源水準に見合った漁業管理手法を構築する必要があります。そこで、研究所では、ハモの資源管理を検討する上で必要となるハモの生態について調査しました。

豊前海で獲られたハモを調べると、6月から10月にかけて、最小で全長43cmから最大で114cmのハモが確認され、そのうち、全長50cmから90cmの個体が約90%を占めました。また、全体的に雌が多く、とくに8月は雄が全く確認されませんでした。さらに、雌の生殖腺重量指数（成熟度合を示すもの）を調べると、7月にピークを迎え、8～9月には急激に低下しました。このことから、豊前海のハモの産卵期は7月頃にピークを迎えていることがわかりました。

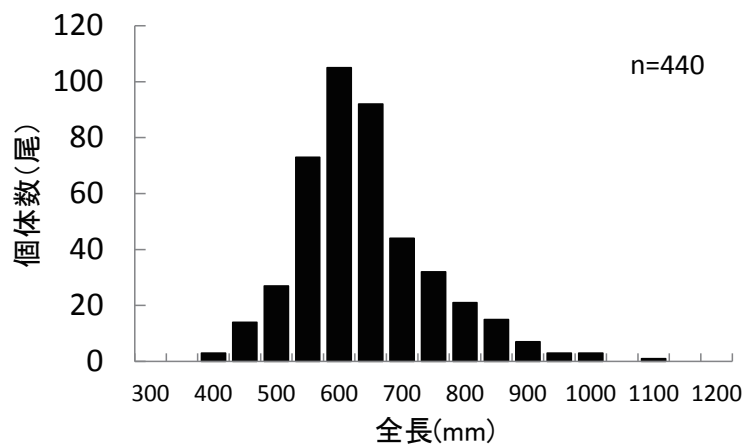
京都や大阪などでは、ハモ料理が食文化として根ざしており、これらの地域では高値で取引されています。今後、これらの地域への出荷や加工商品開発によるハモの供給体制の整備を進めるなど、ハモ資源の管理とともに、付加価値向上に取り組んでいく必要があります。



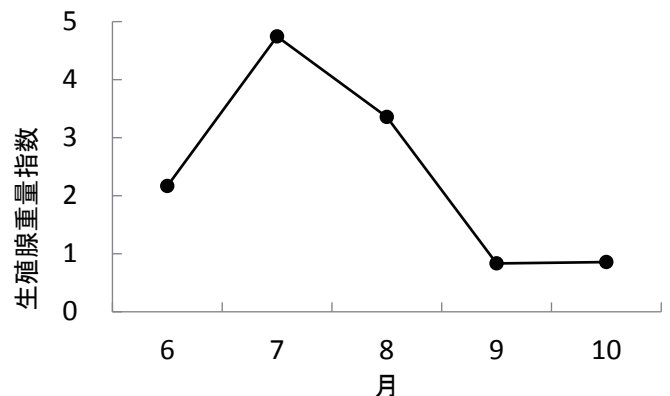
市場に水揚げされたハモ



ハモ漁獲量の推移



ハモの全長組成
(6～10月漁獲分)



生殖腺重量指数の推移

(豊前海研究所)

藻場の再生が進む

昨年、筑前海では、夏季の高水温とその後の台風等の影響により、アラメやツルアラメなどの大型海藻が消失した漁場が確認されました。

その後、研究部では、当該漁場における海藻の生育状況について、定期的に調査を行いました。その結果、海藻が消失した漁場でも、冬にはアラメやツルアラメなどの新芽を確認することができました。これらの新芽を保護するため、研究部では、漁業者によるウニ類の駆除など藻場保全活動の指導に取り組んでいます。

この秋の調査では、藻場保全活動の効果もあり、各漁場で新芽が順調に生育するとともに、葉が消失したアラメやツルアラメも葉の再生が進んでいることを確認しています。

藻場のさらなる再生のためには、継続した藻場保全活動が重要です。研究部では、引き続き、皆さんの活動を支援していきます。



昨年9月の状況
(葉が消失したアラメ)



今年7月の状況
(順調に生長するアラメ新芽)

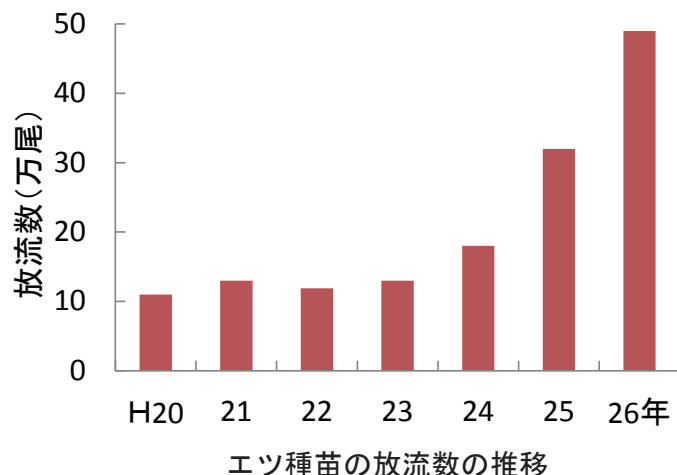
(研究部)

エツ種苗の放流数が過去最高！

エツは、有明海と、筑後川など有明海に流入する河川にのみ生息する珍しい魚です。筑後川下流域では、エツの食文化が根ざしており、観光資源としても重要な魚です。

下筑後川漁協では、地域の重要な資源であるエツを増やすため、種苗生産・放流に取り組んでいます。研究所では、餌料の栄養強化など、エツの活力や生残がより良好となる飼育技術の開発に取り組み、その成果をもとに漁協に技術指導を行っています。この技術によって、今年度は、種苗生産時の生残率が従来の15%から35%に大きく向上し、放流数は49万尾と過去最高を記録しました。また、漁獲量は平成19年以降、20トン前後で推移していましたが、今年は30トンと前年を大きく上回る漁獲となるなど、明るいニュースも伝わってきています。

研究所では、引き続き、エツの資源増殖の取組を支援していきます。



エツ種苗を放流する児童ら
(写真右上：エツ稚魚)

(内水面研究所)

研究情報

有明海における人工アマモによる底質改善について

有明海は、アサリなど二枚貝の全国有数の産地ですが、近年、その資源量は減少し、生産が不安定な状況にあります。アサリ資源の減少要因の一つとして、干潟に泥が溜まり生息環境が悪化していることが考えられています。そこで、アサリの生息に適した環境に改善するため、「人工アマモ」による底質改善技術の開発に取り組みました。

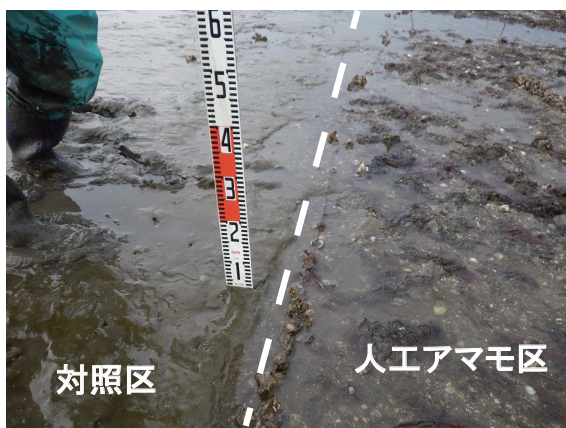
「人工アマモ」とは、海草のアマモを模して、ノリ網の結節部にポリエチレンテープを結びつけたものです。これを干潟に設置することで、テープがアマモのように水中で動いて泥を飛ばす仕組みとなっています。

調査の結果、底質改善の指標の一つである泥分率の平均値は、対照区の14.8%に対し、「人工アマモ区」では8.1%でした。また、時化によって対照区の泥分率が上昇したときでも「人工アマモ区」の泥分率はほとんど変化がなく、効果が持続することもわかりました。

また、対照区では、ナルトビエイが貝を食べた痕跡が確認されましたが、「人工アマモ区」では全く確認されず、ナルトビエイからの食害を防止する効果も確認されました。

さらに、試験期間のアサリの生息密度は、対照区が40個体/㎡に対し、「人工アマモ区」では82個体/㎡と対照区の約2倍となり、アサリの増殖効果も期待できる結果となりました。

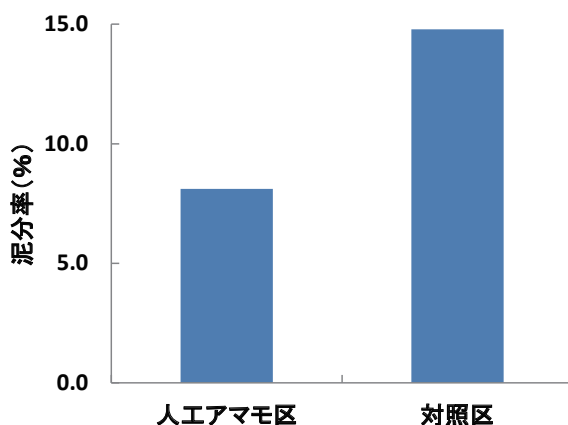
研究所では、「人工アマモ」を活用してアサリなど二枚貝資源の増殖を図って行きたいと考えています。



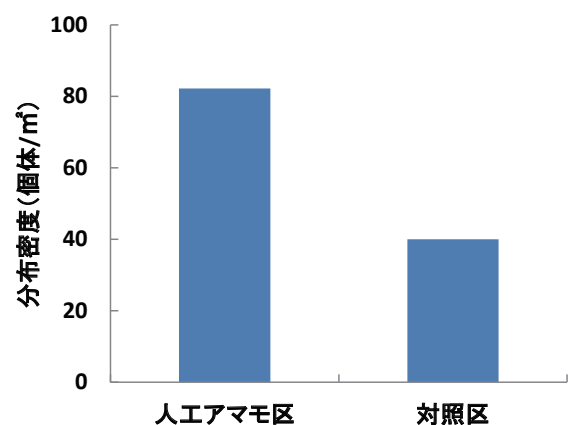
対照区より浮泥量が少ない人工アマモ区



ナルトビエイが二枚貝を食べた痕跡



泥分率の比較



アサリの分布密度の比較

(有明海研究所)

なみなみニュース

内水面漁業者がウナギ資源管理をスタート

日本人にたいへんなじみの深いウナギ。最近、全国的に漁獲量が減少し、資源の低下が危惧されています。現在、本県を含めた全国の研究機関が連携し、資源回復に向け試験研究に取り組んでいるところです。このような中、本県の内水面漁業者が、自らもウナギ資源の回復を図ろうと、秋から冬にかけて産卵に向かう「下りウナギ（通称：銀ウナギ）」の河川での漁獲を規制する取組を始めています。

県民の皆さまにも、釣りなど遊漁で「下りウナギ」を採捕した場合には、ぜひ、再放流にご協力ください。

私たち福岡県の漁業者は
ウナギ資源を保護します

秋から冬にかけて産卵に向かう「下りウナギ（通称：銀ウナギ）」の河川での漁獲を自粛します。また、採れた場合は再放流します。

海に下った銀ウナギは、太平洋の南方（マリアナ近海）へ移動し、産卵します。そこで生まれた稚魚が海流によって、シラスウナギとして日本にたどり着くと考えられています。



銀ウナギ

二ホンウナギは、成熟し、産卵のために海に下る際には、体色や胸びれが黒ずみ、銀色の光沢がでることから「銀ウナギ」と呼んでいます。



普通ウナギ

通常のウナギは、背中が黄褐色、腹が白色で、「黄ウナギ」と呼びます。

福岡県内水面漁業協同組合連合会
大川・大野島・上新田・川口・浜武・沖端・柳川漁業協同組合

ウナギ資源管理の取組をPR

漁業者グループが環境保全学習会を開催

福岡市漁協伊崎支所の漁業者グループが、9月22日に地元の小学生を対象とした環境保全学習会を開催しました。

学習会では、漁業者と子どもたちが一緒に海岸清掃を行い、その後、漁船に乗り込み、海底清掃作業を間近で見学しました。

子どもたちは、回収されたたくさんのゴミを目の当たりにし、普段きれいに見えている海には、身近な家庭ゴミがたくさんある現状を知り、環境について深く考えるいい機会になったようです。



回収したゴミを前に環境保全の重要性を語る漁業者

【お知らせ】おめで鯛まつりを開催

福岡県では、毎年11月を「フクオカ・サイエンスマンス」と位置づけ、広く県民の皆さんに対して科学への理解促進に努めています。その一環として、センターでも11月29日（土）に一般開放イベント「おめで鯛まつり」を開催します。

タッチングプールや、県産のサワラ・シバエビの試食など様々な企画を用意しています。詳細については、水産海洋技術センターのホームページをご覧ください。

また、11月1日（土）～2日（日）には、春日市のクローバープラザでサイエンスマンスオープニングイベントが開催され、センターではチリメンモンスター探しを行います。みなさんのお越しをお待ちしております。



昨年の様子（ふくおかの魚を釣ってみよう）

Food EXPO Kyushu で県産水産物をPR

県などが主催する「Food EXPO Kyushu」が10月上旬に開催されました。

10月3～5日には、「九州うまいもの大食堂」として九州各地から“うまいもの”が大集結しました。県産農林水産物をPRするブースでは、柿やキウイなどとともに、福岡のりも出展し、試食したお客さんからは、その美味しさに感嘆の声があがっていました。一方、郷土の味わいブースでは、福岡県代表として、地島の漁業者グループが出展し、特産のめかぶや旬を迎えたサワラを使った炊き込みご飯などをPRし、多くのお客さんで賑わいました。また、小川知事も訪れ、めかぶやサワラのPRに一役買っていました。



小川知事も地島のめかぶやサワラをPR

続いて、国内外食品商談会が7～9日に開催され、漁業関係では、県漁連や玄界島の漁業者グループが出展し、シロサバフグやマダイの冷凍加工した商材をPR、海外のバイヤーをはじめ、高い関心を集めていました。

また、別のブースでは、蒲鉾などの製造販売を行っている(株)博水が出展し、センターと共同開発したエソ魚醬をPRしていました。この商品は、エソをすり身にする過程で出る残渣を有効活用して開発したもので、魚醬を試食したバイヤーらをうならせていました。



県漁連がシロサバフグなどをPR



福岡県産エソを使った魚醬

ふくおかの地魚応援の店情報誌「魚っ魚ーと」を発行

県では、昨年度から、県産水産物の付加価値向上を図るため、県産水産物を積極的に取り扱う飲食店などを「ふくおかの地魚応援の店」に認定する制度を実施しています。

これら登録店を県民の皆さんに広く周知するため、情報誌「魚っ魚ーと (とっとーと)」を発行しました。今号では、地魚にこだわった海鮮丼を提供するお店を紹介しています。

10月からは、県と包括協定を結んでいるローソンの店舗内でも配架を始めています。見かけたときは、ぜひ、お手にとってご覧ください。



ローソンで配架中

研究員紹介

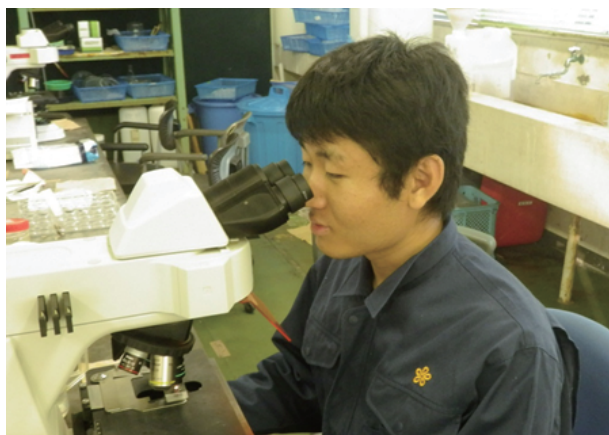
有明海研究所 技師 江頭 亮介

初めまして。今年度新規採用で有明海研究所のり養殖課に配属されました江頭 亮介と申します。

のり養殖の普及指導を主に担当しています。のり養殖に関わるのは初めてで、日々精進していきたいと思っています。10月に入ってから1日中顕微鏡で、漁業者から持ち込まれたノリの熟度等を見ることが多く、胞子囊が目には焼き付いてきています。そろそろ夢に出てきそうです。

また、水産の技術者にも関わらず船に大変弱く、波が高いと調査中にうつろな目になり、口が半開きになっているようなので、なんとか船酔いを克服したいと思っています。

まだまだ未熟な点多々あると思いますがよろしくお願いします。



普及だより

子どもたちを対象とした水産教室を開催

豊前海区普及員室では、豊前海の漁業への理解促進のため、小学生を対象とした水産教室を実施しました。今回は、豊前海の主要魚種の一つであるガザミについて、その生活史をはじめ、漁業者による抱卵ガザミの再放流や種苗放流の取組を説明しました。子どもたちは、ガザミ資源が漁業者の様々な取組によって支えられていることを知り、「大切に食べなきゃ」という声も聞かれるなど、漁業への理解が深まったようでした。



ガザミの稚ガニに興味津々

また、筑前海区では、夏休み期間に小学生を対象とした体験イベントを実施しました。今回は、恒例の「海の贈り物アートをつくろう」や「かまぼこをつくろう」に加え、新たに、「ゆでだこをつくろう」と題し、生きたタコに触れた後、食塩を使ってヌメリをとり、鍋で茹でダコをつくりました。さらに、たこ焼き器を使って、たこ焼きづくりにも挑戦しました。普段、茹でダコしか見たことがない子どもたちにとっては、たいへん貴重な経験となったようでした。



たこ焼きづくりに挑戦

＜編集発行＞ 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1
TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223
センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>
携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>